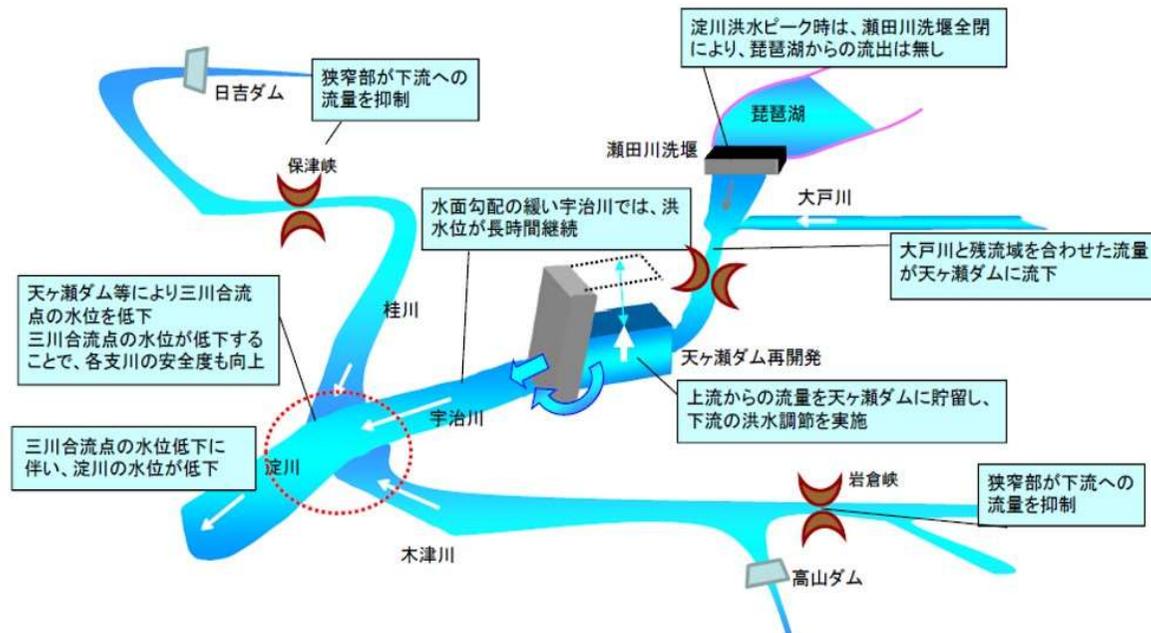


# 近年の降雨傾向や将来の気候変動を踏まえた目標設定 について

---

## (参考) 淀川水系河川整備計画

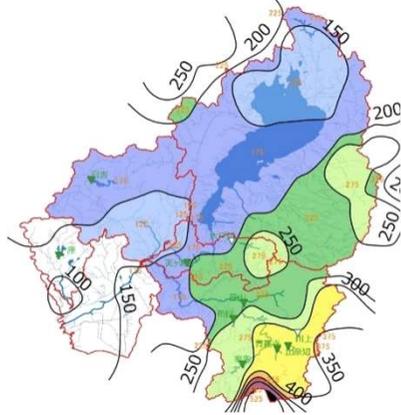
- 整備目標
  - 淀川本川・・・整備のいかなる段階において、計画規模以下の洪水に対しては、淀川本川の水位が計画高水位を超過しないよう水系全体の整備を進める。
  - 宇治川、桂川、木津川・・・戦後最大洪水である昭和28年台風13号を安全に流下。
- 淀川水系の特徴を踏まえた治水の考え方
  - 淀川水系の特徴である琵琶湖、狭窄部、三川合流部を踏まえ、上下流バランスを確保しながら、流域全体の治水安全度を向上させる。



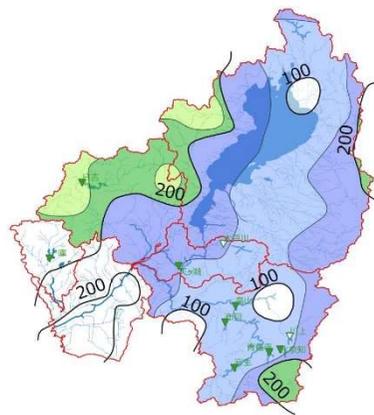
出典：淀川水系における中上流部の河川改修の進捗状況とその影響検証にかかる委員会(H31.3) 第2回委員会資料 抜粋

# 降雨の比較

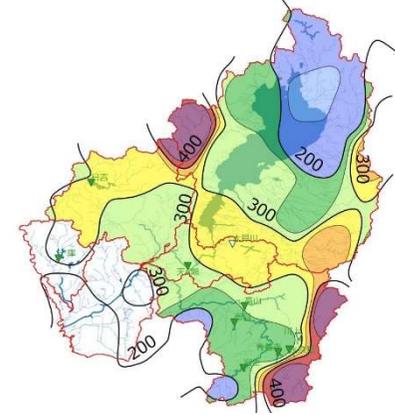
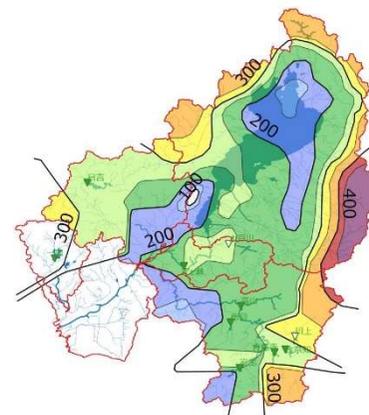
昭和57年台風第10号 平成16年台風第23号 昭和28年台風第13号 平成25年台風第18号



S57.7.31 12:00~8.2 11:00

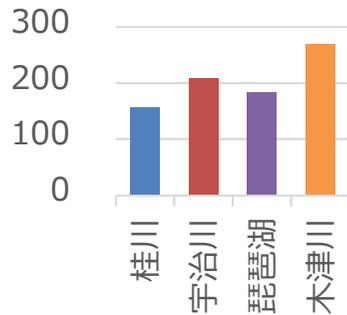


H16.10.19 4:00~10.21 3:00

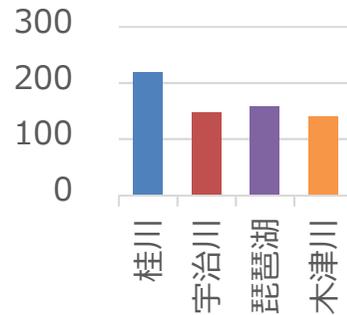


H25.9.14 21:00~9.16 20:00

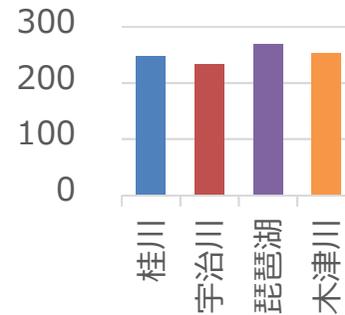
流域平均2日間雨量



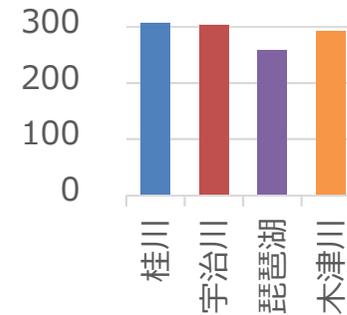
流域平均2日間雨量



流域平均2日間雨量



流域平均2日間雨量



各支川の流域平均2日間雨量は、等雨量線図をもとに、京都府にて算出した。

等雨量線図は、昭和28年台風第13号は国土交通省HPより、その他の台風は気象庁のアメダス観測値をもとに京都府にて作図した。

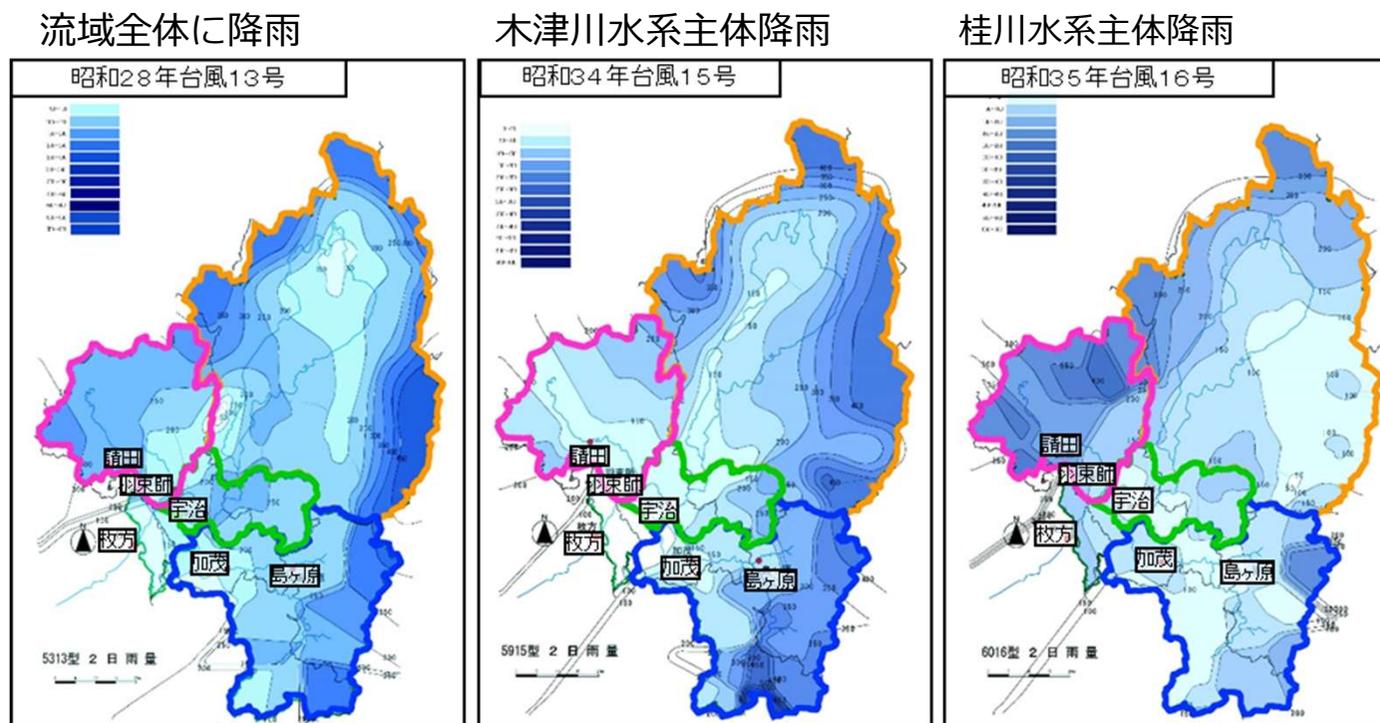
なお、第1回技術検討会では、平成25年台風第18号は「平成25年9月台風18号洪水の概要」(近畿地方整備局)から作図していたため、等雨量線図の形状が異なっている。

## 現行の淀川水系における計画規模洪水について

- 現行の淀川水系における計画規模洪水は、実績降雨、降雨継続時間などから各基準点に大きな流量をもたらす上位の降雨を選定
- 枚方地点は計画規模洪水を安全に流下させるだけでなく、上流で安全に流下した洪水は下流において必ず安全に流下させることができるよう上下流バランスを考慮

⇒ 河川整備基本方針の検討対象として3パターン洪水を選定

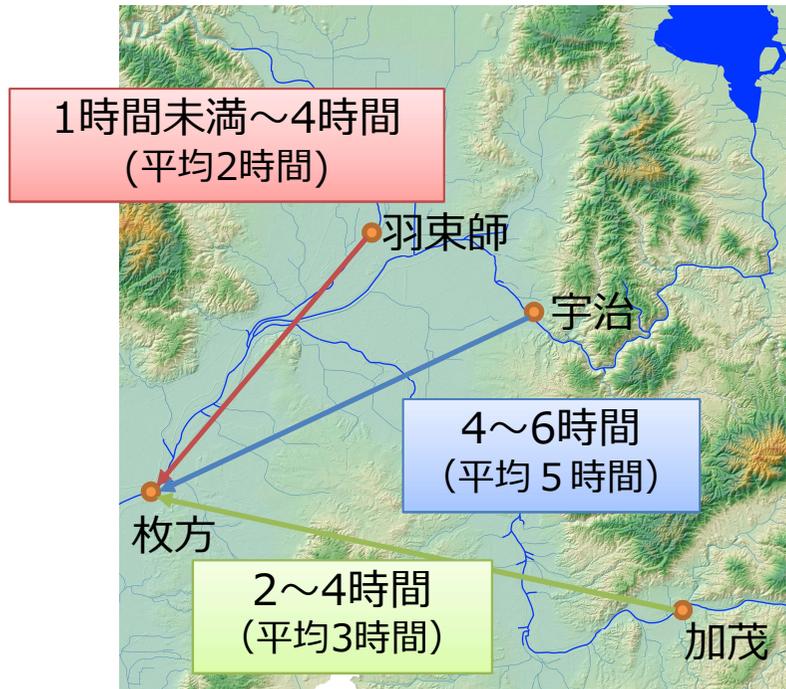
### ○検討対象の代表的な降雨分布状況



## 検討された降雨パターン

- 三川合流部でピークが重なるパターン
  - 昭和28年台風第13号型洪水では、枚方で桂川と宇治川のピークが重なり、その後、木津川のピークが到達している。

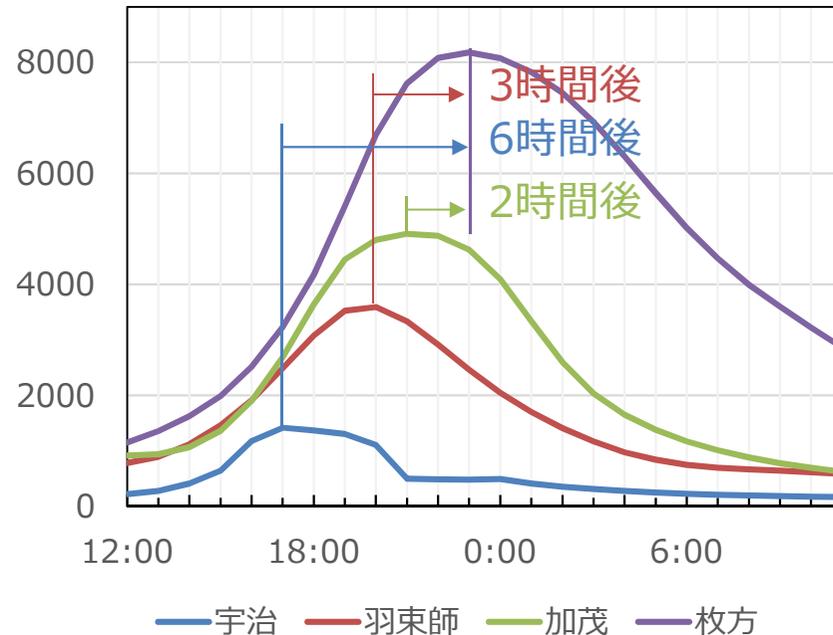
主要な基準点から枚方までの  
流下時間の目安



国からの提供資料

- 河川整備基本方針における計画降雨継続時間の検討にあたり、各地点から枚方までの流下時間（地点間のピーク流量発生時刻の差）を国で算出
- (平均)は京都府で推定し、資料4の14頁の資料で採用

(m<sup>3</sup>/s) 昭和28年台風13号 (1.0倍)



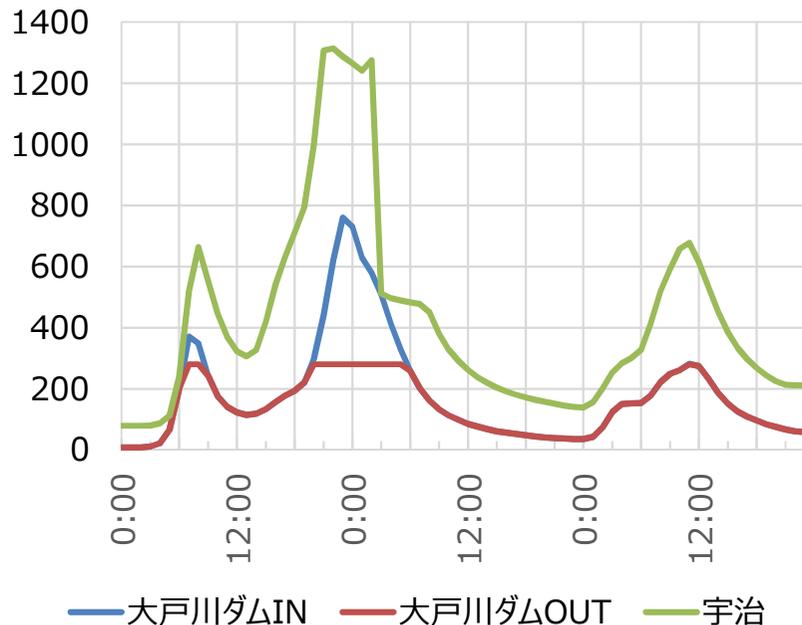
条件

- 施設設定：河川（目標を変更する場合の新たな河道改修が完了）、川上ダム完成、天ヶ瀬ダム再開発完了、大戸川ダム完成、阪神なんば線橋梁架け替え済み、淀川本川橋梁架け替え後
- 流域は平均的な湿潤状態

## 検討された降雨パターン

- 大戸川流域においてピークが複数回来るパターン
  - 昭和57年台風第10号(1.38倍)では、大戸川ダム地点に3度のピークが来る。ただし大戸川ダムが整備され、一定量280m<sup>3</sup>/s放流の操作を行うとした場合、2度のピークで洪水調節が行われることになる。

昭和57年台風第10号(1.38倍)



### 条件

- 施設設定：河川（目標を変更する場合の新たな河道改修が完了）、川上ダム完成、天ヶ瀬ダム再開完了、大戸川ダム完成、阪神なんば線橋梁架け替え済み、淀川本川橋梁架け替え後
- 流域は平均的な湿潤状態

## 平成25年洪水と気候変動の関係について

### (京都府から国への質問)

淀川水系関係6府県調整会議(第1回)資料6では、平成25年台風第18号×1.0と昭和28年台風第13号×1.1が用いられていたが、将来の気候変動の想定として平成25年台風第18号×1.1を考慮する必要はないのか。また、平成25年台風第18号には、気候変動の影響が含まれていると考えられるのか。

### (国からの回答)

- 近年の洪水の発生状況を踏まえ、まずは、桂川・宇治川では平成25年台風18号までの洪水を安全に流すことを目標とし、上下流バランスや実現性等を総合的に踏まえ、木津川では昭和28年台風第13号×1.1までの洪水を安全に流すことを目標としています。
- なお、平成25年台風第18号が気候変動の影響を受けているかどうかについては明確ではありません。

# 河川整備計画と流域治水の関係について

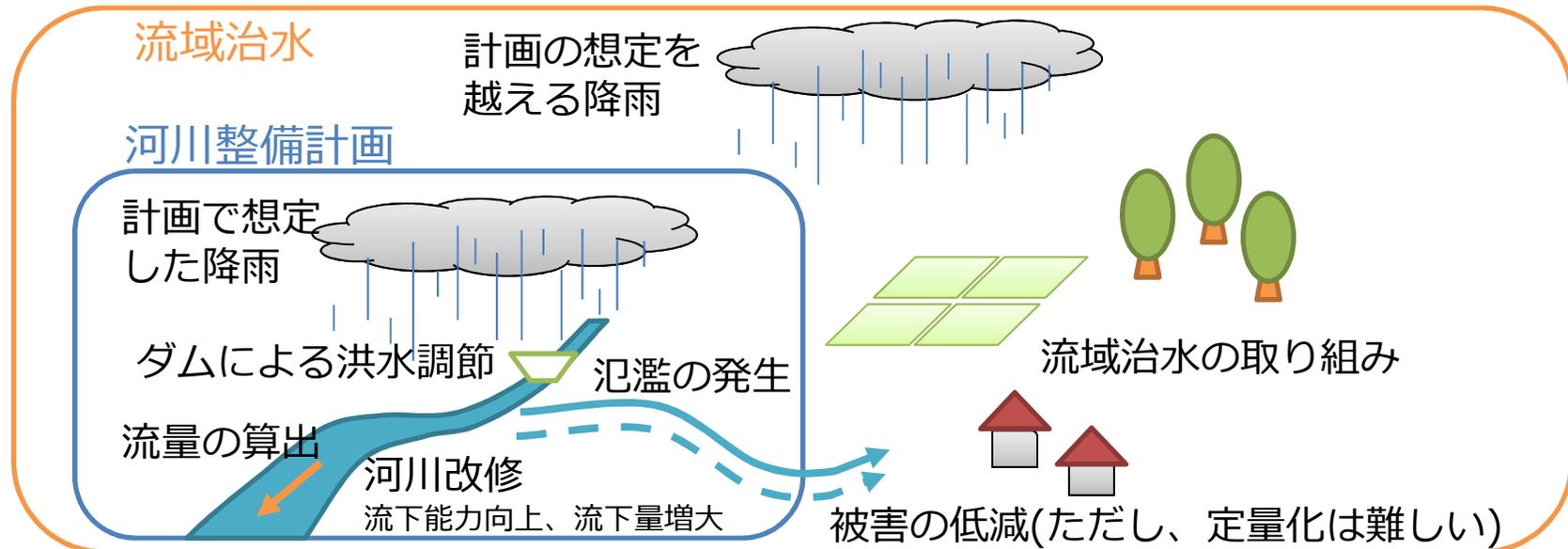
## 流域治水のイメージ



河川整備計画が主に対象とする事業

## 河川整備計画と流域治水の関係について

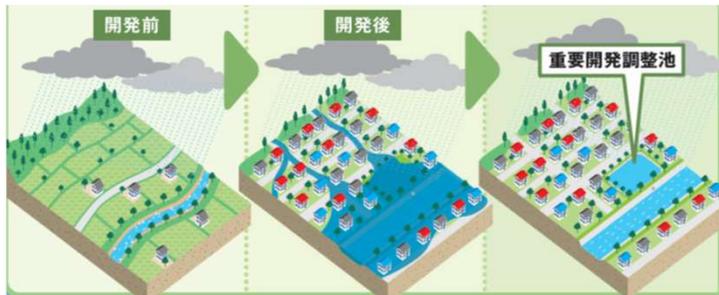
	河川整備計画	流域治水
位置づけ	河川法	関係者の合意等による
外力	戦後最大洪水 等 ※気候変動による影響を踏まえた見直しに速やかに着手	気候変動による降雨量の増加なども考慮
施策	主に河川区域で行う施策	河川区域に加え、集水域、氾濫域の施策
事業者	河川管理者等	あらゆる関係者
効果の定量化	可能	不可能なものも含まれる



## 京都府における流域治水に関する取り組み

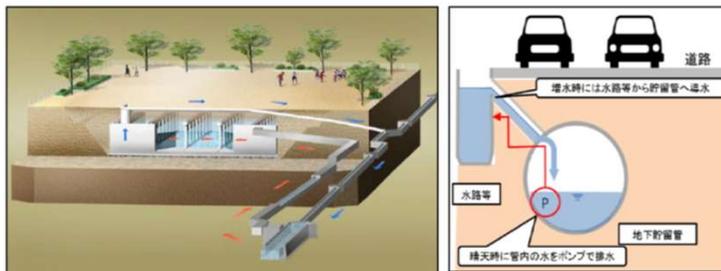
- 災害からの安全な京都づくり条例（平成29年7月施行）に基づき重要開発調整池の設置(面積が1ha以上の開発行為などに義務付け)
- 下水道事業による公共施設の地下に貯留施設設置及び雨水貯留タンクの普及促進

### ■重要開発調整池



条例施行後、6箇所、約24千m<sup>3</sup>設置

### ■公園や道路敷地下の貯留施設



いろは呑龍トンネル事業（対策量約238千m<sup>3</sup>）など

### ■雨水貯留タンクの普及



1基あたり  
80ℓ～200ℓ  
が主流

設置数 3,760基（令和元年度末時点）

